

令和7年度 学校評価報告書

学校番号(小66) 長崎市立(外海黒崎小)学校

1 教育目標

夢（目標）に向かって、「じぶんから みんなと いっしょうけんめい」に取り組む児童を育成する。
～きらめけ～

2 学校経営方針

関係法令、学習指導要領及び県・市の教育方針、第4次長崎市教育振興基本計画に基づき、学校や地域の特色を踏まえて、児童や保護者、地域の願いを取り入れながら、教職員、保護者、地域、関係機関の協働により、子ども一人一人が夢（目標）に向かって生き生きと努力する学校を目指す。

3 重点目標

- 1 学力向上の推進・・・目標に向かって粘り強く取り組み、互いに高め合う子どもの育成（G1-1）
- 2 挨拶、ルール・マナーの定着・・・子どもたちの社会性の育成（G1-2）
- 3 コミュニティ・スクールの推進・・・社会性と地域愛の育成・学びの成果の発揮（G1-3）
- 4 子どもの命と安全を守り抜く（G1-4）

4 自己評価

（ ）内数値は令和6年度分

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保護者	教職員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	98 (100)	100 (93)	100	学校経営に関する肯定的評価は昨年度並み。「学校の雰囲気」については児童・保護者で微増。また、「教育目標」については児童で微減したものの、保護者で増加。「業務の改善」「組織運営」が教職員で100%を維持。教職員が児童や保護者との関わりに注力することができたことで、学校全体の雰囲気が良くなったと考えられる。教育目標の達成をあくまでも主眼として、そのための手段として業務改善や組織運営をさらに進めていく。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	96 (93)	97 (95)	100	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			100	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	91 (76)	97 (98)	100 (92)	「生活・生徒指導」の「ルールやマナー」の項目で、児童の肯定的評価が大幅に増加。教職員の肯定的評価も100%だったことから、児童ができるようになったことを教職員が適切にフィードバックした成果であると考えられる。「挨拶」でも高評価であることから、日々の積み重ねが効果を発揮していると思われる。 「悩みや相談への親身な対応」「いじめ防止」「平和教育」「特別支援教育」の4項目において、児童の肯定的評価が昨年度より微減している。保護者についても「いじめ防止」「平和教育」について微減している。全体として、大きな問題が起きてはいないが、一人一人についての対応が不十分だったところがあると考えられる。個別の面談等を定期的に行ったり、各々にもっと寄り添った指導や支援を行ったりすることで、本校の「一人一人を大切に育てる教育」を充実させていく。
		挨拶をよくしている	96 (93)	97 (95)	100	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	96 (93)	97 (100)	100	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	93 (98)	97 (90)	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	98 (100)	93 (98)	100	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	100	100	100	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	96 (98)	93 (100)	100	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	96 (100)	93	100	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	100	100	100	3項目で保護者の、2項目で児童の肯定的評価が微増。特に「わかりやすい授業」については、本校の学力向上プランに則った授業改善が成果を見せつつあると考えられる。「家庭学習」については、児童の主体的な取組をさらに促すようにすることで、より充実をさせていく。「キャリア教育」については、地域人材や体験活動を生かした学習は児童に好評であるが、将来の自立につながるまでにはなっていない児童も見られる。「心の教育」と同様に、定期的な個別の面談を通して、一人一人の目標や成長を共有し、成果と課題を児童が明確に意識できるようにしていく。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	100 (98)	97 (93)	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	96 (98)	97 (95)	100	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	86 (100)	97 (93)	100	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	100 (95)			
	I C T 教 育	ICTを効果的に活用してわかりやすい授業を行っている	98 (95)	93 (98)	100	

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	100 (93)	100 (98)	100	全項目において、児童の肯定的評価が高く、保護者の評価も2項目において微増している。養護教諭を中心に、「そとめつ子リズムカード」の活用等を通して、好ましい生活習慣や健康への意識の啓発をこまめに行うことができた。「体力向上」については、保護者と教職員で微減しているが、昨年度に比べると外遊びをする児童は大幅に増加している。多様な運動に自ら挑戦する児童の育成を今後も図っていく。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	88	93	100	
		体力向上に努めている	98 (95)	97 (98)	89 (100)	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	100	100 (98)	100	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	100 (98)	100	100	すべての項目で100%かそれに近い評価になった。「安全管理」については、今年度、毎月1回全校安全指導と集団下校を行ったこと、青友会を通じて全児童に反射材シールを配付したことなどが、意識の向上につながったと考えられる。「情報提供」については、毎日のようにHPを更新し、tetoruやあんしんメールで周知してきた成果が出た
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	100 (98)	100	100	
	P T A ・ 地 域 と の 連 携	学校はPTAや地域との連携がとれている	98	100	100	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	98 (100)	97 (100)	100	「環境整備」における肯定的評価は、児童・保護者で微減。児童や保護者・地域の方の意見を聞く機会を設定し、よりよい教育環境にしていきたい。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○例年のように、ほとんどの項目で肯定的評価が90%を超えた。昨年度に比べると、かなりの改善が見られた項目(「ルールやマナー」)もあった。本校の教育活動が着実に成果を上げているのだとらえている。コミュニティ・スクール2年目となり、地域・保護者・学校が一体となった取組がさらに充実してきたことが、学校経営の様々な面でよい影響を与えていると考えられる。地域住民・保護者・児童の主体的な参画をさらに促し、学校及び地域の課題を共に解決する取組につなげていきたい。

○「心の教育」については、昨年度より評価が高まったものもあるものの、微減している項目も多くなっている。こまめな全体指導や賞賛が見せている反面、一人一人の気持ちに寄り添った対応がさらに必要である。個別の面談等を定期的に設定し、児童の悩みや課題、目標や進捗状況などを共有することで、児童にとって本当に必要な支援や指導につなげていく。そうすることで、「確かな学力」にもよい影響を及ぼすと考えられる。特に、児童の評価が下がっている「将来の自立に向けた指導」において、個別の目標やそこに至る過程を明確にすることは、大きな成果につながると考える。

○「健やかな体」においては、長年の課題であった「基本的生活習慣」の項目が改善傾向にあり、児童の評価が高まった。養護教諭を中心に、地道な啓発活動が実を結んできたと考えられる。一方で、自分に甘く評価している児童も散見される。自分で自分をコントロールする自律的な態度の育成について、さらに充実を図りたい。そうすることで、「決められたリズムを守る」から「自身の体を強くするために健康的な生活にする」という意識につなげ、「体力の向上」にもつなげていきたい。

6 学校関係者評価

○多様化が進んでいる中、課題を分析して改善を目指している学校に対して、とても信頼が置ける。
○アンケートの質問項目を低学年にも分かるものにした方がよい。
○「安全管理」「環境整備」について：通学路の危険箇所(崖崩れ)については、連合自治会からも担当部署に連絡をして、児童の安全が守られるようにしたい。
○「環境整備」「PTA・地域との連携」について：多目的ホールに設置されている「交流ボード」によって、子供たちの思いを共有しようとしているのは、とてもよい取組。「地域と学校と一緒に取り組んでみたいこと」というテーマに対して、子供たちは素直に自分たちの願いを書いて掲示している。地域と学校で実現させてあげたい。
○「キャリア教育」「PTA・地域との連携」について：地域の行事(柏木くんち等)に、児童と教職員が積極的に参加していて、行事の主催者がとても喜ばれていた。
○「キャリア教育」について：「何になりたい」という具体的なものがなくてもよいと考える。憧れられる大人の姿を見せて、温かく見守ることが大切。学校と地域の大人がそのような姿を見せていく。
○「キャリア教育」について：卒業式の際に、児童が将来の夢や目標を壇上で語る姿がよい。楽しみにしている。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○学校運営協議会委員の皆様には、本校の取組の姿勢や教育活動、児童のよさや成長について十分に評価をしていただいた。特に、地域との連携については、コミュニティ・スクールとして、地域にもできることを一緒に考えていきたいという前向きな言葉をいただいた。次年度は、このような地域からの声を児童・教職員・保護者にも伝え、さらに一体となった取組につなげていきたい。そして、それが児童の成長につながるように、丁寧な見取りや指導を行ってきたい。

○「キャリア教育」について、「憧れられる大人の姿を見せていきたい」という言葉をいただいた。まさに、教育の根幹にあるものだと考える。学校としても、多様な地域人材の活用や地域の先人の功績の探求等だけでなく、身近な大人が児童のために汗をかき、力を注ぐ姿を見せていきたい。そのために、地域・保護者・学校が一体となった行事や活動をさらに推進したり、児童を支えてくださっている方たちに目を向けさせる指導に注力したりしていきたい。そして、「自分たちには何ができるのか」という視点で、児童自身が生き方を考えるように仕組んでいきたい。

○児童の安全について、地域からの積極的な協力の申し出があった。児童の安全は地域全体の安全につながるという視点で、学校としても情報を積極的に共有していきたい。そして、対応について、依頼できる部分は地域を頼り、学校の働き方改革にもつなげていきたい。